

## 第三部：世界共通の概念・認識(平和教育)

学問の会の目的は、従来派との学術論争において勝利を得ることではない。真の目的は「世界平和への基本論」を説くところにある。

従来の学問体系は相対概念のみが基礎となっており、相対速度の表記については問題ないが、それら表記された速度の比較が不可能なものである（従来の欠陥教育＝洗脳教育）。

他方、学問の会は、幾つかの新たな原理・原則を提唱し、それに基づいて「絶対概念を導入した新たな学問体系の端緒を切り開いた」のである。ここで「絶対」というのは、

- ① 宇宙の仕組み（原理・原則）に基づくもの「速度比較の原理（観量性理論の論文を参照）」である。
- ② 世界共通の概念・認識に基づくもの「M&N数論（思考と時間の正体の論文を参照）」である。
- ③ そして①②の併用によるものが「絶対運動と絶対静止の相当原理」と「絶対静止の規定法（観量性理論の論文を参照）」である。

なお、以下では簡単の為に、①②③の内容を一括して「世界共通の概念・認識」と呼んでおく。

-----  
相対概念のみに基づく従来の欠陥教育（洗脳教育）は、子供達に競争心を植え付けることしかできない。例えば、「オリンピックは勝つことではなく、参加することにこそ意義がある（クーベルタン）」であるが、現状はドーピング問題で明らかな様に、勝つが目的の如くになっている。

世界共通の概念・認識を幼い頃から、実生活などに則って教育する必要があるのである。この世界共通の概念・認識の教育は、人間社会の規範として浸透していくことになる。このことについては、折を見て詳しく論じていくことにする。

※ウィキペディア百科事典で、下記の項目、  
「物理学」「数学」「平和教育」  
などを参照されたい。

[目次へ戻る](#)